

■12月23日

バニラ・エア(LCC)、目標搭乗率80%、付帯収入2割を目標、旅行会社と協力して知名度向上

バニラ・エアの石井社長は20日、第一便を就航させた記念式典で、安全運航を前提に、定時性を高く、欠航率を低く保つことで顧客の信頼性を高めていきたいとした。さらに、「バニラとして一味も二味も違う、お客様が乗ってうきうきわくわくし、次も乗ろうというような仕掛けをしていきたい」考えだ。トラベルビジョンが報じた。

その中で、付帯収入についても言及し、同社は通常運賃に受託手荷物20キログラムを含んでいるため、付帯収入が低くなる見込み。現在は付帯収入の目標を15%としているが、機内販売や他社とのコラボレーションなどで、将来的には2割まで高めたいとした。

また、来夏スケジュールについては、就航先として検討中のグアムについては前向きに検討しているが、双発機のエンジンが1基停止しても一定時間飛行可能である「ETOPS」取得などに時間がかかるため、現時点で就航時期は未定だという。

一方、販売方法においては、予約開始からまだ間もないため「ウェブサイトだけでは知名度が足りない」と課題をあげ、旅行会社経由の販売では、現在旅行会社経由(4社)での販売の占める割合は、全体の約2割となっているが、このほかにも現在数社と商品造成について話し合いをしているとし、もう少し増やしていきたい考えを明らかにした。

(トラベルビジョン)12/22

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=60019&pg=2> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=60019&pg=2>)

新千歳空港、2013年利用者数1870万人、過去2番目―羽田線ビジネス客堅調、国際線利用増

(北海道新聞によると)

国土交通省新千歳空港事務所は20日、国内線と国際線を合わせた同空港の2013年乗降客数が1870万人前後となり、歴代最多だった02年の1883万人に次ぐ2位となる見込みだと明らかにした。羽田線のビジネス客が堅調だったほか、国際線利用客の増加が寄与した。

同事務所が同日発表した11月までの累計乗降客数は前年同月比7・1%増の1725万2631人だった。

11月単月の航空概況によると、国内線の乗降客数は135万8273人で前年同月比6・9%増。羽田線が75万3978人(前年同月比8・1%増)と好調に推移。同事務所は「景気の回復傾向により、ビジネス客の動きもいい」と分析する。

一方、成田線は7万635人で同9・2%の減少。成田を拠点にしていたエアアジアが10月下旬で運航を終了した影響とみられる。

11月の国際線は8万8426人で同23・9%増。台北線が3万4658人(同19%増)とけん引。バンコク線も1万5406人で同2・6倍となった。国際線の11月までの累計乗降客数は114万4044人(同17・1%増)で、過去最多だった昨年の年間107万人を大きく上回る。

(北海道新聞)12/21

<http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/511443.html> (-> <http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/511443.html>)

JTB、2014年旅行動向見通し、海外旅行者数、2013年比2.1%増へ

ジェイティービー(JTB)は21日、2014年の旅行動向見通し調査を発表した。それによると、海外旅行の人数予想を2013年比2.1%増の1780万人とした。(2013年は1743万人に着地することを前提)。LCCの就航、羽田空港の路線増などによる供給座席数の増加や景況感が追い風になるほか、近距離アジアでの対立が落ち着きつつあり、消費税の影響は懸念されるもののシニアを中心に底堅い需要が見込まれることなどもプラスに作用するとの分析だ。トラベルビジョンが報じた。

海外旅行での消費額は4兆8700億円で5.2%増の予想。これは、欧州やハワイ、東南アジアなど中長距離の方面の人気が続く、単価が3.0%増の27万3600円となる見込みのため。

一方、国内旅行は人数が0.2%増の2億9150万人、旅行消費額が5.3%増の10兆3900億円。国内と海外を合わせた旅行者1人あたりの平均旅行回数は0.02回増の2.44回とした。また、訪日旅行人数は13年が1032万人で1000万人を初めて突破し、2014年はさらに14.3%増の1180万人に増加すると予想している。

(トラベルビジョン)12/22

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=60016> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=60016>)

(JTBプレスリリース)12/20

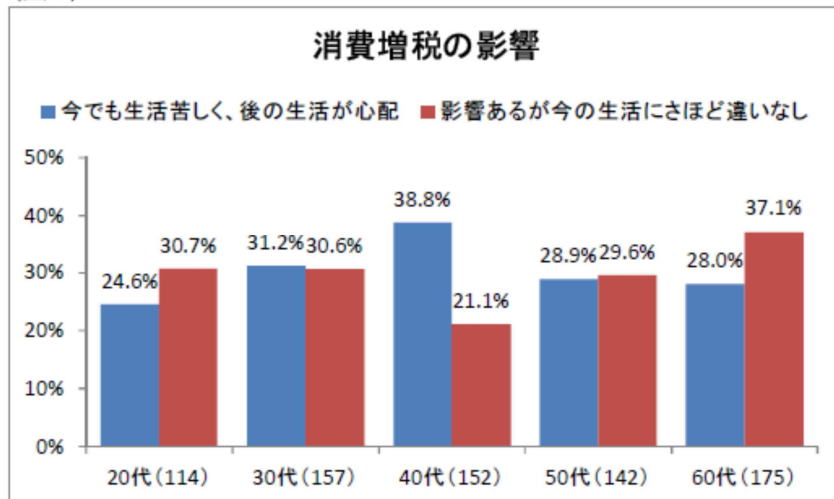
http://www.jtbcorp.jp/scripts_hd/image_view.asp?menu=news&id=00001&news_no=1788 (->

http://www.jtbcorp.jp/scripts_hd/image_view.asp?menu=news&id=00001&news_no=1788)

* 出典:JTB2014年旅行動向見通し

	2014年		2013年		2012年
	見通し数値	前年比	推計	前年比	実績推計
総旅行人数(延べ人数)	3億930万人	+0.3%	3億833万人	+1.3%	3億439万人
国内旅行人数	2億9,150万人	+0.2%	2億9,090万人	+1.7%	2億8,590万人
海外旅行人数	1,780万人	+2.1%	1,743万人	▲5.7%	1,849万人
平均消費額					
国内旅行平均消費額	35,640円	+5.0%	33,940円	+3.5%	32,780円
海外旅行平均消費額	273,600円	+3.0%	265,600円	+5.4%	251,900円
旅行総消費額	15兆2,600億円	+5.2%	14兆5,000億円	+3.3%	14兆300億円
国内旅行消費額	10兆3,900億円	+5.3%	9兆8,700億円	+5.3%	9兆3,700億円
海外旅行消費額	4兆8,700億円	+5.2%	4兆6,300億円	▲0.6%	4兆6,600億円
平均旅行回数	2.44回	+0.02回	2.42回	+0.03回	2.39回
訪日外国人数	1,180万人	+14.3%	1,032万人	+23.4%	836万人

(図3)



JTB旅行動向アンケート調査(戸別訪問調査)

エアアジア(LCC)、減益でボーナスを減額

エアアジアは、今年1-9月期決算で増収ながらも減益となったことを受け、勤務査定が「良好」だった社員のボーナス額(対月給倍率)を前年の半分の1.5カ月分とした。査定が「傑出」だった社員は最高で3カ月分だった。先ごろマレーシア・ベースの社員を対象とした夕食会でトニー・フェルナンデス最高経営責任者(CEO)が明らかにした。マレーシアナビが報じた。

同社は、今年1-9月の売り上げは6.9%増の38億3,518万リング、純利益は同59.1%減の1億9,862万リングとなった。為替差損により、3億4,629万リングの損失となった。

一方、赤字続きのマレーシア航空は、昨年に続いて今年もボーナスゼロだった。

(マレーシアナビ)12/22

<http://response.jp/article/2013/12/21/213522.html> (-> <http://response.jp/article/2013/12/21/213522.html>)

エアアジア(LCC)トニー・フェルナンデスCEO、「新しいエアアジア・ジャパンのパートナーを見つけた」とツイート

エアアジアのトニー・フェルナンデスCEOは20日、「エアアジア・ジャパンのパートナーをすでに見つけている」とツイートした。

After huge amounts of work thrilled to announce we have found our partners for Airasia Japan. Fantastic partners who share our vision

(ツイッター)12/20

<https://twitter.com/tonyfernandes/status/413918535618818048> (->

<https://twitter.com/tonyfernandes/status/413918535618818048>)

(tracy)12/21

<http://www.traicy.com/archives/8184054.html> (-> <http://www.traicy.com/archives/8184054.html>)

ジェットエアウェイズ、成田—バンコク間、日本発アウトバウンド需要取り込みへ

タイのジェットアジアエアウェイズは12月20日付けで、ギャランツアーを日本地区総代理店(GSA)に指名した。同社は11月3日から、成田—バンコク間で定期チャーター便を開始した。使用機材はボーイング767(座席数235席)。現在は訪日旅行のみ対応しているが、GSAの活用により日本発のアウトバウンド需要の取り込みをはかる。

トラベルビジョンによると、現行のチャーターは、11月はタイ発の需要のみで95%のロードファクターを達成したといい、12月も同様に90%強を維持できる見込み。好調さを受けて現在の週2便を2014年1月には週3便、4月以降には週4便へと増便していく計画で、ジェットアジアエアウェイズ社長のジャコブ・サバ氏は「来年には定期便化したい」と意欲を語った

日本市場での販売に向けて、まずはブランディングを強化し、日本市場での認知向上をはかる方針。販売目標は2014年6月までに1便あたり50席で、14年末には毎便100席を販売する計画だ。

(トラベルビジョン)12/20

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59997&pg=2> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59997&pg=2>)

[id=59997&pg=2](http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59997&pg=2))